

【講演】

図書館広報を再設計する

専門職として生き残るための5つの特效薬

兵庫県立大学 神戸キャンパス 23 階大講義室 13:40 -14 : 50 (70 分) + 質疑応答(30 分)

仁上幸治 (早稲田大学図書館)

< 目次 >

- 【1】広報活動とは何か
- 【2】「図書館利用教育ガイドライン」
- 【3】図書館オリエンテーション(新入生向け)
- 【4】テレビドラマの中のステレオタイプ
- 【5】「専門性」論議の落とし穴 - 3点セット論
- 【6】新しい図書館員像の創造
- 【7】図書館員のイメージ形成の場
- 【8】図書館の組織風土
- 【9】広報戦略の必要性
- 【10】5つの特效薬
- 【11】専門性の研鑽
- 【12】結論：専門性を訴求するには

- 資料1：早稲田大学所沢図書館オリエンテーション・講習会の記録
- 資料2：広報論の復習
- 資料3：文面の改善事例
- 資料4：参考文献・参考サイト
- 資料5：出版物・講演会案内
- 資料6：講師紹介

■別紙配付資料

- 1) 帳票見本1：他館複写取寄申込書
- 2) 帳票見本2：講習会申込書
- 3) 講演スライド集
- 4) 講演進行表
- 5) 利用教育の目標と方法一覧表 (『図書館利用教育ガイドライン』1998)

資料1： 早稲田大学所沢図書館オリエンテーション・講習会の記録

1-1. 2004年度まで

2002年度まで： 必修科目「情報処理1」

人間科学部において2002年度までは学部新入生の必修科目「情報処理1」の中の1コマが図書館オリエンテーションの時間に当てられていた。6月第二週に14コマ。

しかし、2003年度のスポーツ科学部の新設にともない、同科目内での実施は図書館側の負担の点で困難となったため、図書館オリエンテーションは廃止となった。

2003年度・2004年度： ビデオ「新入生のためのWINE解説」

その代わりに、ビデオ「新入生のためのWINE解説」(“RealPlayer”版149KB:19分)を制作して所沢図書館ホームページに掲載し、1年次必修の人科の「基礎演習」およびスポ科の「スポーツ教養演習」において、各教員から授業中に実際に上映するか、各自で視聴するよう案内をする形にした。

1-2. 問題点

- ・新入生オリエンテーションの代替策としてのビデオの効果についてはまだ評価が行われていない。(授業中の指導内容・時間などと図書館利用率との関連等)
- ・ビデオだけでは効果が薄い可能性が大きい。
- ・キャンパス全体の情報リテラシー教育の一環としての位置づけが曖昧。
- ・図書館員による具体的な利用案内・利用指導が行われていない。(参考)他大学の事例

1-3. 2005年度企画案

(1)人科「基礎演習」、スポ科「スポーツ教養演習」のひとコマ

- 1)1年生必修科目である両学部の人科「基礎演習」、スポ科「スポーツ教養演習」の中の1コマを当てる。90分全部ないし、授業後半の45分か30分程度。
- 2)できるだけ大教室で回数を減らす(人科「基礎演習」:月水木金曜1限目、スポ科「スポーツ教養演習」:水曜1限目)
- 3)内容はかつての「情報処理1」のレベルの初歩部分、図書館と情報リテラシーの入門編とする。
- 4)名称は図書館オリエンテーション(1)とする。

(2)人科「基礎演習」、スポ科「スポーツ教養演習」における個別授業支援

- 1)人科「基礎演習」、スポ科「スポーツ教養演習」の各担当教員からの依頼により図書館から担当者を派遣する。
- 2)内容は、研究室単位で個別に相談する。(参考)理工学図書館オリエンテーション申込書
>> 参加者数等は利用教育実施状況を参照。

1-4. 2006年度実績拡大

>> 所沢図書館ホームページ参照

資料2： 広報論の復習

[1] '図書館広報実践ハンドブック - 広報戦略の全面展開を目指して -' 私立大学図書館協会東地区部会
研究部企画広報研究分科会編集発行/日本図書館協会発売/2002年8月31日刊行/A5判304頁/定価2381円
(税別)

[2] '広報 = 戦略' 説

- 1) 図書館員の病気 10
- 2) 図書館組織の病気 10
- 3) 4段階発展モデル

- 4) 広報 20 大手段
- 5) 基本戦術 42

【3】図書館員の10大症候群

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1)「懐古感傷」症、または「雅（みやび）破壊反対」説 | (7)「体得過信」症、または「マニュアル過信禁物」説 |
| (2)「応答中毒」症、または「対話の喪失防止」説 | (8)「無策安住」症、または「そこまでやらなくても」説 |
| (3)「大衆嫌悪」症、または「過保護無用」説 | (9)「自信過剰」症、または「オレがやらなきゃ誰がやる」説 |
| (4)「協働拒否」症、または「我不関知」説 | (10)「外注拒否」症、または「自前手作り満足」説 |
| (5)「怠惰居直」症、または「呼び込み＝仕事増御免」説 | |
| (6)「不毛謙虚」症、または「自力勉強唯一」説 | |

【4】図書館組織の病気

- | | |
|---------------------|------------|
| (1)本務優先主義 | (6)完全主義 |
| (2)前例主義 | (7)クソマジメ主義 |
| (3)場当り主義 | (8)事なかれ主義 |
| (4)減点主義 | (9)居座り主義 |
| (5)部門至上主義（セクショナリズム） | (10)体面主義 |

【5】広報 20 大手段 (1982)

（広報支援手段）

1. 広報ノート
2. 質問メモ
3. スタッフマニュアル
4. 事務工程分析図
5. 企画書
6. 館内報
7. 打合せ会
8. 広報委員会
9. 年次計画書
10. 年次報告書
11. 中長期計画書
12. 図書館委員会

（広報手段）

13. オリエンテーション
14. 投書箱
15. 本の架
16. 利用案内
17. PR 紙
18. ポスター
19. ビデオ
20. サイン計画

【6】基本戦術 42

・考え方 10 + 基本戦術 42 （『図書館広報実践ハンドブック』参照）

【7】外部委託の本当の効果

「雇用を守れ」説

「定型業務をみんなでシェア」説

非定型業務への余力投入

専門性の訴求による地位向上

* 「図書館運営、紀伊国屋書店に委託 江戸川大、開業時間も延長」日本経済新聞、2004.6.24、39 面

資料 3： 文面の改善事例

督促状の文面改善案（2005.1.26）

（1）現在の文面

図書館からのお知らせ

現在貸出中の図書は以下の通りです。期限内に必ずご返却ください。

この通知は卒業・修了予定の方を対象としております。卒業・修了の場合

3月15日までに返却されないと学位記を受け取れないことがあります。

本状が図書の返却と行き違った際はご容赦下さい。

（2）問題点

- 1) 「ください」と「下さい」の不統一
 - ・「ご返却ください」と「ご容赦下さい」
- 2) 「れる」「られる」の尊敬と受身の混用
 - ・「返却されないと学位記を受け取れない」の「返却されない」の「され」と「受け取れない」の「れ」は意味が異なる。尊敬と受身の混用は避けるほうが賢明。
- 3) 「貸出中」の主語は誰？
 - ・「現在貸出中の図書」の「貸出中」の主語は誰？利用者であれば、「借用中」（昔は「帯出中」）あいまいにしておくから敬語の誤用を生む。
- 4) 通知の対象者限定
 - ・第二文に記載があるが、重要事項は冒頭に記載するべき。
- 5) 留年や進学等の事情変更の場合の説明なし？
 - ・説明を付記すると親切。

(3) 改善方針

- 1) 内容の事務的伝達を優先し、敬語は必要最小限とする。
- 2) 文章形式よりも見出し形式を優先する。
- 3) 述語で敬語を使う前に、名詞で済ませよう工夫する。
- 4) 文の連続よりも箇条書きにする

(4) 改善文案

図書館からのお知らせ

[卒業・修了予定者用]

- ・現在あなたが借用中の図書は以下の通りです。期限内に必ずご返却ください。
- ・利用資格期限の3月15日を過ぎて未返却図書がある場合、学位記を受け取れないことがあります。
- ・留年や進学等の事情変更で利用資格が継続する場合はお知らせください。
- ・システムの都合上、図書の返却後に本通知が届いた際はご容赦ください。

資料4： 参考文献・参考サイト

■図書館利用教育

- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ガイドライン(合冊版)』日本図書館協会、2001.8
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』日本図書館協会、2003.3.

■情報機器

- ・田畑孝一編『情報機器論』東京書籍、1998.10(新現代図書館学講座；16) ¥2000
- ・志保田務、平井尊士 編著『図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 12章』第一法規出版、1999.4 ¥2000

■情報リテラシー

- ・野口悠紀雄『「超」発想法』、講談社、2000.3、¥1600.
- ・野口悠紀雄『パソコン「超」仕事法』、講談社文庫、1998.11(原著 1996.4)、¥438.
- ・松岡正剛『知の編集術』、講談社現代新書、2000.1、¥680.
- ・情報リテラシー教育研究会編著『論文作成のための情報リテラシー』弘学出版、2000.3 ¥1950
- ・学習技術研究会編著『知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版社、2002.4.

*私立大学図書館協会東地区研究部情報リテラシー教育研究分科会

<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/joholite/index.html>

■図書館の視聴覚教育

- ・大学図書館問題研究会出版部編『電子図書館時代の図書館員 pt.2』大学図書館問題研究会出版部、2000.8(大図研シリーズ；no.15)
- ・日本図書館協会編集『「図書館における視聴覚資料の収集と利用に関する実態調査」報告書』日本図書館協会、1997.3
- ・『視聴覚教材の効果的利用法』日本視聴覚教材センター、1985

■IT講習会

- ・『IT学習のための実践マニュアルーIT講習を社会教育施設で実施するためにー』社会教育情報化推進研究会事務局 2001.1 112p B5判 ¥650

■発表

- ・ボブ・ボイラン『プレゼンテーション成功の秘訣13』TBS ブリタニカ、1993. ¥1300.
- ・諏訪邦夫『発表の技法ー計画の立て方からパソコン利用法までー』講談社、1995(ブルーボックス B-1099)、¥760.

■広報

- ・藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』講談社、1999.3(ブルーボックス)

- ・藤沢晃治「「分かりやすい説明」の技術」講談社, 2002.10 (ブルーバックス)
- ・藤沢晃治「「分かりやすい文章」の技術」講談社, 2004.5 (ブルーバックス)
- ・藤沢晃治「「分かりやすい」図解コミュニケーション術」講談社, 2006.1(講談社+α 新書)
- ・丸山尚『広報紙・社内報づくりの実務』中央経済社 1988 ¥1,800
- 大学生の学習法
 - ・中尾浩・伊藤直哉著『Windows95 版人文系論文作法』夏目書房、1998、¥2857.
 - ・高橋三郎・新田光子「大学生入門」改訂版、世界思想社、2006.2.
 - ・中島祥好・上田和夫「大学生の勉強マニュアルーフクロウ大学へようこそ」ナカニシヤ出版、2006.3.
 - ・溝上慎一「大学生の学び・入門ー大学での勉強は役に立つ！」有斐閣、2006.3(有斐閣アルマ)
- インターネット
 - ・野口悠紀雄『インターネット超活用法 2001』講談社、2001、¥1400。(http://www.noguchi.co.jp/)
 - ・実践女子大学図書館編『インターネットで文献探索 2005』日本図書館協会、2005、¥1800.
 - ・橘川幸夫『21 世紀企画書ー日本型インターネットの可能性ー』晶文社、2000.5.
 - ・橘川幸夫『インターネットは儲からない！』日経BP、2001.6.
- ホームページデザイン
 - ・ヤコブ・ニールセン『ウェブ・ユーザビリティー顧客を逃がさないサイトづくりの秘訣』エムディエヌコーポレーション;インプレスコミュニケーションズ[発売]、2000、¥2,940
 - ・ヤコブ・ニールセン『マルチメディア&ハイパーテキスト原論ーインターネット理解のための基礎理論 -』東京電機大学出版局、2002(情報デザインシリーズ) ¥5,040
- パスファインダ
 - ・伊藤民雄「IT 講座:インターネットと情報(第 7 回)ウェブ情報の検索:情報源の効率的な探索」『情報管理』44(9) [2001.12] p.629-640
 - ・鹿島みづき ; 山口純代「投稿:図書館パスファインダーに見る次世代図書館の可能性」『情報の科学と技術』 52(10) [2002] p.526-537
 - ・河上純子、仲尾正司、仁上幸治 他「パスファインダーバンクの実用化に向けてーWeb 版共同利用ナビゲーションシステム開発計画案」(私立大学図書館協会東地区部会 館長会・研究講演会、研究分科会報告大会記録 2001 年度 /『私立大学図書館協会会報』.(通号 118) [2002.11] p.183~188
 - ・村田輝 他「教育情報案内パスファインダーによるレファレンスサービスの Web への展開ー東京学芸大学附属図書館における教育情報ポータルサイト"E-TOPIA"」(国際学術コミュニケーション特集)『大学図書館研究』(67) [2003.3] p.37-49.
 - ・愛知淑徳大学図書館インターネット情報資源担当 編『パスファインダ・LCSH・メタデータの理解と実践 : 図書館員のための主題検索ツール作成ガイド』愛知淑徳大学図書館.;紀伊国屋書店発売、2005.2
 - ・石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会『パスファインダーを作ろう: 情報を探す道しるべ』全国学校図書館協議会、2005 (学校図書館入門シリーズ 12) 840 円
 - ・レファレンス協同データベース事業 <http://www.ndl.go.jp/jp/library/collabo-ref.html>
- 研修
 - ・岡本浩一「上達の法則ー効率のよい努力を科学する」PHP研究所、2002.5(PHP新書)
 - ・多和田悟「犬と話をつけるには」文藝春秋 2006.6(文春新書)
 - ・米澤誠 他「情報探索マニュアルの作成と職員向け講習会の実施:東北大学附属図書館での事例報告」『大学図書館研究』(69) [2003.12] p.34-41
- 講習会教材公開の先進事例
 - ・愛知淑徳大学図書館: <http://www2.aasa.ac.jp/org/lib/>
 - ・京都大学図書館<講習会><全学共通科目「情報探索入門」>:
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/homejm.html>
 - ・九州大学図書館<情報リテラシー学習支援>: <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index.html>
 - ・東京大学図書館<ネットでアカデミック on Web>: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>
 - ・東京工業大学図書館<講習会案内>: <http://www.libra.titech.ac.jp/>
 - ・東京学芸大学図書館<講習会情報>: <http://library.u-gakugei.ac.jp/>
 - ・京都精華大学情報館<マルチメディア講演会>: <http://www.kyoto-seika.ac.jp/johokan/>
 - ・日本女子大学図書館<利用案内>[eラーニング]: <http://www.lib.jwu.ac.jp/>
 - ・東北大学図書館<情報探索の基礎知識>: <http://www.library.tohoku.ac.jp/>
 - ・その他
- サイン
 - *私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会「大学図書館のサイン 現状分析と一考察ー利用者の視点に立った改善の勧めー」『私立大学図書館協会会報』No.112, pp97-
- リザーブ図書制度
 - *仁上幸治「アメリカの大学図書館よりずっとアメリカ的!?ーMuch more American than American university libraries!?!ー」

『早稲田大学国際教育センターニューズレター』第3号, 2002.7.10, pp.6-9.

<http://www.waseda.jp/cie/icl/index-j.htm>

■図書館、司書課程、FD

* 金丸明彦、下田研一、長澤多代「長崎大学におけるファカルティ・ディベロップメント・プログラム: その概要ならびに大学教育機能開発センターと附属図書館が協同した「情報検索の方法」」『大学図書館研究』119 [2003.12], pp.1-14.

* 仁上幸治「司書課程の社会的評価の向上を目指す切り札—情報検索演習における「受講生による授業評価」の集計結果報告—」『法政大学教職資格課程年報』vol.1、2003年度、2004.3.30, pp.66-76.

■共同レファレンス

・NetCommons: 国立情報学研究所: 自由にレイアウトできるネットオフィスのオープンソース・ソフトウェアを公開:

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/collabo-ref.html>

■図書館員のための共同学習システム

・L ラーニングオンライン模擬試験: L-ラーニング学習支援システム研究分科会: 大学図書館司書として知っておいて欲しい知識を集めた問題: <http://ml.lss.tama.ac.jp/cgi-bin/tqindex.cgi>

■e ラーニング自習・自己診断テスト

・慶応義塾大学日吉情報センター: KITIE: <http://project.lib.keio.ac.jp/kitie/>
<http://www.hc.lib.keio.ac.jp/ilp/activity/book01.html>

資料5: 出版物・講演会案内

1) 『**図書館利用教育ガイドライン(合冊版)**』日本図書館協会図書館利用教育委員会編、日本図書館協会、2001.8

2) 『**図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)**』日本図書館協会図書館利用教育委員会編、日本図書館協会、2003.3. B5判 300頁/定価 2500円

・表紙写真付き紹介: <http://www.bk1.co.jp/> 他 委員会活動 <http://www.jla.or.jp/cue/>

3) 『**図書館広報実践ハンドブック - 広報戦略の全面展開を目指して -**』私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会編集発行/日本図書館協会発売/2002年8月31日刊行/A5判304頁/定価2381円(税別)

『図書館雑誌』2002年6月号広告より:

サイン計画から広報紙編集まで図書館員必読、広報担当者必携のお役立ち虎の巻。

■ヒト・モノ・カネの制約条件の中で最小の手間で最大の効果を上げるための方法手段をわかりやすく整理。

■旧来の「単なるお知らせ」でしかなかった広報をサービス向上と組織活性化の戦略として捉え直す。

■組織内部の壁にぶつかった時に挫折しないための知恵を10年間の共同研究から集大成(企画広報研究分科会活動報告書 No.4)

■4段階レベルアップ法、20 大手段活用のポイント、困った時の対処術、共同研究活動報告、参考文献付。

・ハンドブック編集委員会: <http://homepage1.nifty.com/oyaoya/kikaku/>

・パスファインダーバンク: <http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/>

4) **図書館総合展フォーラム** <http://www.j-c-c.co.jp/>

2003.11.4: 「図書館員のための指導サービス実践講座—新しい専門性を印象づけるプレゼンテーション事例—」、仁上幸治・有吉末充・赤瀬美穂、東京国際フォーラム

2004.11.26: 『情報科』後の図書館利用教育—変わる利用者をどう迎えるか—講演: 安達一寿、パシフィコ横浜

2005.11.30: 「子どもの生きる力、エンパワメントのためのメディアリテラシー—図書館員による情報リテラシー支援とむすぶ—」講演: 田上時子(NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西代表)、パシフィコ横浜

5) **フライデーナイトセミナー / 利用教育実践セミナー** <http://www.jla.or.jp/cue/>

第1回: 2004.2.20: 「図書館員のための指導サービス実践講座【パート2】—プレゼンテーションの実演と討論—」仁上幸治・有吉末充・和田佳代子、JLA

第2回: 2004.5.28: 「図書館員のための指導サービス実践講座—講習会「超」必勝法—」木下みゆき・毛利和弘、JLA

第3回: 2004.10.15: 「図書館利用教育の組織をどう作るか—組織の壁はこの作戦で必ず超えられる!—」毛利和弘・赤瀬美穂、JLA

第4回: 2005.3.11: 「情報リテラシーをめぐる最近の動向—図書館と指導サービスの理論的基盤—」野末俊比古、JLA

第5回: 2005.5.27: 「情報検索指導における良い例題・悪い例題—素材を集め問題を作り要点を説明する方法—」仁上幸治、JLA

第6回: 2006.03.18: 「情報検索指導における良い例題・悪い例題—素材を集め問題を作り要点を説明する方法—」仁上幸治、キャンパスプラザ京都

第7回: 2006.6.28 「新入生オリエンテーションのテーマに多数の参加者—3種類の実演と自己点検・評価の事例が好評—」石川敬史、JLA

第8回: 2006.10.13 「インターネット活用講座から公共図書館の利用教育を考える」斎藤誠一、JLA

資料6： 講師紹介

仁上幸治 (にかみ・こうじ)

早稲田大学図書館司書/筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程在学中

ホームページ: <http://www.dcn.s.ne.jp/~bbutler/~nikami-home/> e-mail: nikamik23@gmail.com

◎勤務先

早稲田大学所沢図書館/〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

<http://wul.waseda.ac.jp/human/index-j.html> e-mail: nikami-k@waseda.jp

◎講師歴

1999-2004 法政大学非常勤講師(司書教諭課程「情報メディアの活用」)。司書課程「図書館特講」[情報検索演習]

2001- 亜細亜大学司書夏季集中講座講師(「情報機器論」)

2005- 東京家政大学司書教諭課程非常勤講師(「情報メディアの活用」)

2006- 桜美林大学司書教諭課程非常勤講師(「学校図書館メディアの構成」「情報メディアの活用」)

◎研究開発活動歴

1982-2002 私立大学図書館協会東地区部会研究部「企画広報研究分科会」(世話人代表者:1982-91, 98-2001)

1992- 紀伊國屋書店ビデオシリーズ『図書館の達人』『新・図書館の達人』企画監修委員

1990-2005 日本図書館協会図書館利用教育委員会委員

◎専攻分野

図書館広報論、図書選択論、図書館サービス論、図書館マーケティング論、利用者教育論、情報メディア論、情報探索行動論

◎論文・報告(単著)

- ・「大学図書館広報を考えなおす； 戦略への脱皮をめざして」『現代の図書館』v.21,no.4,1983.12,pp.233-230.
- ・「広報活動における相互協力の拡大－ポスター・本の葉の共同制作の歩み－」『私立大学図書館協会会報』86,1985.6,pp.65-100.
- ・「わが校の図書館あんなに：早稲田大学高等学院」『学校図書館』no.489,1991.7, pp.70-71.巻頭口絵写真 2p.
- ・「選書基準をめぐる冒険－魅力の自己組織化を演出する＜柔軟化＞戦略(試論)－」『現代の図書館』v.29, no.3,1991, pp.183-192.
- ・「選書基準をめぐる冒険(2)－柔軟化に対する反動にどう対応するか－」『現代の図書館』v.33, no.2,1995, pp.125-139.
- ・「コンビニに負けない生涯学習支援サービスを！－市民の情報リテラシーと社会教育－」『月刊社会教育』2000.10, pp.22-27.
- ・「インタビュー：ガイドラインQ&A」『大学の図書館』no.304,1999年3月号, pp.36-38.
- ・「ホームページ上に「万能道具箱」を！－情報リテラシー支援装置としての上部団体の役割」『大学図書館研究集会記録』18, 2002.3, pp.91-99.
- ・「長い片想いの果てに－情報リテラシー支援事業委員会への遠い道のり－」『大学の図書館』、Vol.21, No.1(No.338), pp.11-13.(2002)
- ・「『家元』制度と専門性の復興－新事業展開は組織改革から－」『大学の図書館』、Vol.21, No.5(No.342), 2002, pp.62-68
- ・「図書館マーケティングとプランニング・プロセス論－経営革新をめざす『実行可能な方法』の開発と導入」(特集 専門図書館のマーケティング)『専門図書館』no.192, 2001.3, pp.8-18.
- ・「アメリカの大学図書館よりずっとアメリカ的!?－Much more American than American university libraries!?!－」『早稲田大学国際教育センターニューズレター』第3号, 2002.7.10, pp.6-9.
- ・「軽いノリと少しの勇氣－利用者満足度調査は自信と希望の証－」『図書館雑誌』96(11)(通号 948) [2002.11] pp.872-875.
- ・「情報リテラシー教育と新しい図書館員像－『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで」『館灯』41, 2003.3, p.39-52.
- ・「司書課程の社会的評価の向上を目指す切り札－情報検索演習における「受講生による授業評価」の集計結果報告－」『法政大学教職資格課程年報』(法政大学キャリアデザイン学部紀要別冊)vol.1, 2003年度, 2004.3.30, pp.66-76.
- ・「これは危機ではない？－困った利用者よりずっと困った問題群－」『図書館雑誌』98(11)[2004.11], pp.838-841.
- ・「総本山の進まない構造改革－専門職崩壊のデフレスパイラル－」『大学の図書館』24(2),2005.2.(特集大学図書館と日本図書館協会)pp.28-31.
- ・「オリエンはエンタメだ！－素敵な印象を伝えるプレゼンテーションを－」『学図研ニュース』No.229,2005.3.1, pp.2-5.(特集オリエンテーション)
- ・「大学図書館員のためのオリエンテーション技法－印象づけを重視した構成・演出の改善の試み－」『医学図書館』52(1), 2005.3pp.15-24.(特集情報リテラシー・サービス)
- ・「学術情報リテラシー教育における広報イメージ戦略－司書職の専門性をどう訴求するか－」『情報の科学と技術』55(7),

2005.7, pp.310-317.(特集:図書館の発信情報は効果的に伝わっているか?)

◎著書(共著)

- ・私立大学図書館協会東地区部会研究部図書館サービス研究分科会広報グループ『図書館広報を考えなおす』, 1982.12.
- ・日本図書館協会利用教育委員会編『図書館利用支援ガイドライン—図書館における情報リテラシー支援サービスのために(合冊版)』日本図書館協会、2001.8, 81p:¥1500
- ・私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会『図書館広報実践ハンドブック』日本図書館協会発売、2002.9 303p, ¥2381
- ・戸田光昭[他]共著『改訂 専門資料論』樹村房、2002.10(新図書館学シリーズ第8巻), ¥1900
- ・図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』日本図書館協会、2003.3
- ・三浦逸雄, 野末俊比古(共編著)『専門資料論』日本図書館協会、2005.6(菅野育子, 高橋昇, 仁上幸治共著)(JLA図書館情報学テキストシリーズ, 8)

◎論文・報告(共著)

- ・高橋昇・仲谷由香理・仁上幸治「新図書館とサインシステム計画」『早稲田大学図書館紀要』no.27,1987.3,pp.58-90.
- ・河上純子, 仲尾正司, 仁上幸治 他「パスファインダーバンクの実用化に向けて—Web 版共同利用ナビゲーションシステム開発計画案—」『私立大学図書館協会会報』118,2002.11, p.183-188

◎インタビュー記事

- ・Topics 著者・編者に聞く(『図書館広報実践ハンドブック—広報戦略の全面展開を目指して—)「広報は情報流通の「発展的循環モデル」を目指す戦略」月刊『広報』2003年2月号(No.609)pp.32-34.

◎最近の講演・発表等

- ・東京女性財団「女性問題トレーナー養成講座」女性センター職員編:第1期:「情報リテラシーを身に付ける」第3日:講義「広報活動をどう活性化するか—効果的な情報発信のために—」:演習「すぐできる紙面改善—読ませる見出し・レイアウト入門—」2000.12.東京ウイメンズプラザ
- ・神奈川県女性行政推進者養成研修講座:講義「視線のコントロール—快感と興味への意図的な訴求—」:演習「すぐできるチラシづくり—惹きつける見出し・レイアウト入門—」2001.2.神奈川県女性センター
- ・大学図書館研究集会:発表「ホームページ上に「万能道具箱」を!—情報リテラシー支援装置としての上部団体の役割—」2001.9.一橋大学
- ・越谷市男女共同参画支援センター「情報活用ステップアップ講座—IT講習から一歩前進—」:ワークショップ「チラシ・ニューズレターの効果的な発信—読ませる見出し・レイアウト—効果的な情報発信のしかた」2001.9.同センター
- ・ブレインテックユーザー研究会:講演「情報リテラシー支援による図書館のイメージ革新—利用者の自立が図書館員の専門性を高める—」2001.10.虎ノ門パストラル
- ・私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会第7回相互協力実務担当者研修会「情報リテラシー教育と新しい図書館員像—『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで—」2002.8.1.中京大学
- ・日本図書館協会シンポジウム:報告「利用教育ビデオ教材の現状と課題—達人シリーズが切り拓いたもの—」2003.3.20(「利用教育の昨日・今日・明日」)日本図書館協会
- ・看護図書館協議会利用教育研究グループワークショップ「誰でもすぐできるパスファインダー作成法—日常業務の中で手軽に作るための6つの極意—」2002.8.3.日本医科大学図書館
- ・北海道地区私立大学図書館協議会 2003年度第1回業務研究会 講演「教育支援サービスと新しい図書館員像—『図書館利用教育ハンドブック』が描く指導専門職—」2003.7.18 札幌大学
- ・群馬県大学図書館協議会大学図書館研究会:講演「広報イメージ戦略と新しい図書館員像—専門的指導サービスをどう印象づけるか—」2003.9.26 高崎商科大学
- ・図書館総合展「図書館員のための指導サービス実践講座—新しい専門性を印象づけるプレゼンテーション事例—」2003.11.4 東京国際フォーラム
- ・日本図書館協会フライデーナイトセミナー第1回「図書館員のための指導サービス実践講座【パート2】—プレゼンテーションの実演と討論—」2004.2.20 日本図書館協会
- ・鶴見大学 T.U.L.A(Tsurumi University Librarians Association)研修会 講演「図書館員のための利用指導サービスのポイント—プレゼンテーションの実演と討論—」2004.7.10. 鶴見大学図書館AVホール
- ・東北地区大学図書館協議会合同研修会「大学図書館における利用者教育と利用促進」基調講演「利用指導サービスと広報戦略—専門性を訴求する取り組みのポイント—」2004.7.30 岩手大学情報メディアセンター図書館
- ・私立短期大学図書館協議会全国研修会:講義と演習「指導サービスの組織化と指導プログラム・教材の作成」2004.8.26-27、北海道武蔵女子短期大学
- ・群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会:講演「パスファインダー超簡単作成法—日常業務の中で作るための7つのステップ—」2004.9.8、放送大学群馬学習センター
- ・埼玉高校図書館研究会司書部会研究集会:講演「情報メディアの活用をどう支援するか—学校図書館司書による指導サービスのポイント—」2004.11.24、さいたま文学館(桶川市)

- ・NII 学術情報リテラシー教育担当者研修:講演「学術情報リテラシー教育における広報戦略」2005.1.20@阪大, 1.28@NII
- ・日本図書館協会フライデーナイトセミナー第5回:講演「情報検索指導における良い例題・悪い例題～素材を集め問題を作り要点を説明する方法～」2005.5.27、日本図書館協会
- ・はなのう学校図書館まつり特別講義「図書館で情報の世界への窓を開けるーポスターからパスファインダーまでー」2005.10.10、駿河台大学
- ・2005.11.15 医学図書館研究会・継続教育コース「新しいオリエンテーション技法ー利用者をひきつける構成と演出」東京歯科大学血協記念ホール
- ・2005. 11.1 , 11.17 NII 学術情報リテラシー教育担当者研修:講演 「学術情報リテラシー教育における広報戦略」NII、大阪大学
- ・2005.11.17 近畿地区医図協・薬図協・病図協共催シンポジウム「利用者教育におけるプレゼンテーションの実際」大阪大学生命科学分館AVホール
- ・2005.12.7 文部科学省東海北陸地区図書館地区別研修「情報活用支援サービスの最新技法」福井県立図書館
- ・2006.03.18 日本図書館協会図書館利用教育実践セミナー「情報検索指導における良い例題・悪い例題～素材を集め問題を作り要点を説明する方法～」キャンパスプラザ京都
- ・2006.10.06 北海道大学附属図書館講演会「図書館広報戦略の新段階ー外部委託できない専門性の核をどう訴求するかー」北海道大学附属図書館大会議室
- ・2006.10.14 紀伊国屋書店・日本アスペクトコア 業務スタッフ研修「図書館広報革命ー第一印象はオリエンテーションで決まるー」紀伊国屋書店本社会議室
- ・2006.11.16 兵庫県大学図書館協議会「図書館広報を再設計するー専門職として生き残るための5つの特効薬ー」兵庫県立大学 神戸キャンパス 23 階大講義室

◎教材ツール開発(企画・監修)

- ・私立大学図書館協会企画広報研究分科会:共同制作ポスター・葉・掲示用紙・ブックカバー、1984-
- ・日本図書館協会:頒布ポスター・葉・掲示用紙「コニーちゃん」シリーズ、1998-99
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会:「りてらしい」グッズ(T シャツ、トレーナ、キャップ、バッグ、ブックカバー、エプロン)2000-
- ・ライブラリービデオシリーズ『図書館の達人』全6巻、紀伊国屋書店、1992.10、1993.7.
- ・ライブラリービデオシリーズ『新図書館の達人』全6巻、紀伊国屋書店、1998.3、 2002.11.
- ・ライブラリービデオシリーズ『情報の達人』DVD 版全3巻、紀伊国屋書店、2006.12(刊行予定) *ビデオ・スライド・テキスト

◎図書館サービス計画研究所(略称「トサケン」)

<http://www.dcn.ne.jp/~bbutler/~nikami-home/tosaken/>

講演予定

- ・2006.11.22 水--図書館総合展 2006 フォーラム講演会「情報検索指導における良い例題・悪い例題(中級編)ー専門分野別データベースの特徴を紹介する方法ー」(日本図書館協会主催)パシフィコ横浜 フォーラム第6会場